

雑 録

鐵の筒及管免稅事情 (昭和 5 年 5 月 11 日帝國議會兩院通過、同 5 年 5 月 16 日實施)

(1) 改正理由 昭和 5 年 4—5 月臨時議會に提案せられたる關稅定率法中改正法律案により免稅せらるる鋼管は以上の 2 種なり。

1. 462 號の内、外徑 167 mm を超え長さ 5 m を超えたるケーシング及其ジョイント。
2. 外徑 110 mm を超え長さ 5 m を超えたるアップセットドリルパイプ及其ジョイント。

而して以上は何れも専ら石油坑井用にして未だ本邦に製造なきものなり即ち本邦鋼管製造業者の主なるものは日本鋼管會社及住友伸銅鋼管會社なるが何れも外徑 167 mm 以上のものの製造に適せず殊に所謂 6" 石油坑ケーシング鋼管(外徑 168 mm)の製造は困難なり又アップセットドリルパイプは外徑 110 mm を超える所謂 4" 管の製造は困難なり而して之等の鋼管は石油事業に於ては相當多量に使用せられ從來より外國品の供給に俟ちつつあるを以て石油事業保護の見地より其輸入税を低稅若くは無稅と爲す事の妥當なるを認め豫て鑛山局に於ても關稅調査委員會幹事會に提案し研究したる事あり。

然るに關稅審議會設けらるるや本件に關する調査を爲す事となりたるを以て使用者側たる日本石油會社、製造者側たる日本鋼管會社及住友伸銅鋼管會社とを招致し當局及大藏省主稅局立會の上種々研究したる結果本案の如くすれば兩者共異議なく同時に石油事業の保護上甚だ有效なりとの結論に到達せるを以て關稅審議會は之を認め其の實行方に付關稅調査會に諮問し其答申に基き本案を提出したるものなり。

尙ほ本規定に於ては鋼管の徑を外徑を以て定めたる結果他の鋼管の關稅率表に定められたる内徑寸法のものとの統一を缺く憾あるも石油用鋼管は外徑を以て規定するを便なるを以て差し當り先づ之れを外徑を以て規定し一般鋼管も外徑を以て規定し差支なき爲適當なる機會に改正せんとするものなり。

大正 14 年以降 4 年間平均の一般鐵管の需要高は約 8 萬噸にして其中生産高は約 5 萬噸なるが以上需要高中石油坑井用鐵管需要高は約 6,000 噸にして以上一般鐵管の約 7 % に該當し其中約 2,500 噸を内地に於て生産し残り 3,500 噸は之を輸入に仰ぐ狀況なり、此輸入額 3,500 噸は一般鐵管の需要高に對し約 4 % 石油坑井用鐵管の需要高に對し約 58 % に該當する次第にして凡て外徑 167 mm を超えるケーシング及外徑 110 mm を超えるアップセットドリルパイプなり而して内地に於て生産せらるる 2,500 噸は以上寸法を超えざるもののみなるを以て輸入品を無稅とするも内地當業者に別段惡影響を及ぼさざるものと認めらる。

備 考

1. 鋼管現行關稅率 金屬を鍍せざる鋼管 内徑 150 mm を超えざるもの從價 18 %、其他從價 15 %

2、石油事業に對する影響 輸入鐵管の關稅と原油生産額との關係(最近5ヶ年平均)

日本石油株式會社分 輸入鐵管の關稅 約 116,000 圓 原油生産額 約 140 萬石 原油 1 石 當り關稅額 約 12 錢

石油坑井用鐵管輸入額調(日石の分)

	大正 14 年度	同 15 年度	昭和 2 年度	同 3 年度	同 4 年度前半期	
(1) 外徑 167 耗 以上のケーシング 及ジョイント	數量	4,598 噸	512 噸	1,925 噸	2,733 噸	4,953 噸
	金額	1,211,460 圓	129,130 圓	401,380 圓	653,720 圓	1,440,330 圓
	平均單價	261 圓	252 圓	209 圓	236 圓	291 圓
	關稅	158,420 圓	16,900 圓	52,530 圓	85,390 圓	188,110 圓
(2) 外徑 110 耗 以上のアップセッ トドリルパイプ及 ジョイント	數量	1,065 噸	256 噸	229 噸	328 噸	549 噸
	金額	449,910 圓	101,150 圓	84,250 圓	100,210 圓	224,580 圓
	平均單價	422 圓	395 圓	373 圓	306 圓	409 圓
	關稅	64,100 圓	14,670 圓	11,640 圓	14,650 圓	32,580 圓
合 計	數量	5,663 噸	768 噸	2,154 噸	3,061 噸	5,502 噸
	金額	1,661,370 圓	230,280 圓	485,630 圓	753,930 圓	1,664,910 圓
	關稅	222,520 圓	31,570 圓	64,170 圓	100,040 圓	220,690 圓

製鋼(鋼材)原料需給參考表(昭和5年4月調査、鐵鋼協會調査書に多少修正を加へたるもの)

1、昭和3年度鋼材生産額(括弧内は鋼生産額)

	t	t		t	t
日本製鋼×	18,986	(34,028)	住友製鋼×	30,849	(43,591)
釜石製鋼×	61,387	(65,244)	神戶製鋼×	84,991	(76,736)
日本鋼管*	206,284	(203,724)	川崎造船*	138,169	(134,071)
浅野造船	52,600	(53,664)	浅野小倉	50,429	(46,938)
東京鋼材	17,260	8,428	製鐵所	833,641	(1,125,375)
大阪製鐵	48,022	(52,019)	富士製鋼	34,265	(32,613)
住友伸銅×	26,518	(17,312)	合計	1,603,401	(1,893,744)

備考 ×印は歴延鋼材の外鍛鑄鋼品をも含む。*印は海外よりの鋼片にて製造せる製品を含む。

2、銑鐵消費額 (單位噸)

輪西銑	16,449	鞍山銑	32,508	瑞典銑	1,721
釜石銑	38,247	支那銑	—	淺野銑	27,040
兼二浦銑	27,595	印度銑	112,568	製鐵所銑	739,386
本溪湖銑	30,835	へマタイト銑	3,130	其他	9,094
合計	1,038,573	鋼材噸當銑鐵消費額	0.649		

3、屑鐵消費額 (單位噸)

自家産	内地品	輸入	合計	鋼材噸當消費額
239,788	331,909	266,668	838,365	0.523

4、合金鐵消費額 (單位噸)

滿俺銑	珪素銑	鏡銑	アルミニウム類	其他	合計	鋼材噸當消費額
12,422	2,987	2,056	160	575	18,200	0.011

5、鐵鑛石類消費額 (單位噸)

内地産	支那産	印度産	南洋産	朝鮮産	合計	鋼材噸當(製鋼用)
17,448	193,412	1,673	15,332	227	228,142	0.142

6. 石炭消費額 (單位噸)

北海道炭	九州炭	滿洲炭	其他	合計	鋼材1噸當
84,355	273,994	257,230	133,575	754,154	0.470

7. 電力消費額 (單位K.W.H)

購入	自營	合計	鋼材噸當
90,719,763	229,692,959	320,412,722	200

8. 重油、コールター等消費額 (單位噸)

重油		コールター		合計	鋼材噸當
南洋	北米内地	内地	内地	39,571	0.025
7,907	26,134	8	5,522		

9. 石灰石、苦灰石等消費額 (單位噸)

石灰石		苦灰石		マグネサイト		螢石	合計	鋼材噸當
生	燒	生	燒	生	燒	4,762	223,903	0.143
151,358	6,699	62,438	2,756	1,061	829			

10. 昭和3年製鋼用(鋼材)原料材料消費割合表

原料	銑鐵	屑鐵	合金鐵	鐵鑛	石炭	電力	重油 コールター	石灰石、苦灰石 マグネサイト
鋼材噸當消費額	t	t	t	t	t	K.W.H	t	t
	0.649	0.523	0.011	0.142	0.470	200	0.025	0.143

製鐵原料需給參考表 (昭和5年4月調査)

(1) 昭和3年内地、朝鮮及滿洲銑鐵生産額

内地	1,093,000 ^t (合金鐵を除く)	朝鮮	146,000 ^t	滿洲	285,000 ^t	計	1,524,000 ^t
----	---------------------------------	----	----------------------	----	----------------------	---	------------------------

(2) 昭和3年度鐵鑛類消費額 (鐵鋼協議會調査)

内地産	74,100 t	支那産	795,100 t	滿洲産 富鑛	214,400 t	朝鮮産	410,700 t
南洋産	636,800	燒結鑛 (八幡使用)	8,700	燒結及團鑛	266,000	平爐滓 (八幡及鐵滓使用)	34,900
屑鐵 (八幡使用)	400 t	計	2,458,300 t	硫酸滓 (八幡使用)	17,200	銑鐵1噸當消費額	1.610

(3) 昭和3年度鐵鑛産出及輸入額

内地産出額	朝鮮産出額	滿洲産出額 (貧鑛を含む)	支那より輸入額	海峽植民地より輸入額	其他より輸入額	計
160,000 t	559,000	676,000	878,000	739,000	1,000	3,013,000

備考 (1) 滿洲産、676,000噸、中富鑛を214,000噸と假定し差引貧鑛462,000噸を富鑛に換算すれば154,000噸となる (2) 朝鮮出産額559,000噸の内、内地への移入225,000噸あり。

(4) 昭和3年度骸炭消費額 (鐵鋼協議會調査)

朝鮮産	支那産	内地産	滿洲産	計	銑鐵1噸當消費額
t	t	t	t	t	t
146,200	77,800	1,143,200	245,700	1,612,900	1.060

本邦民間市場鉄鐵需給高表

(昭和5年3月17日調査)

單位噸

年次 (曆年)	内地供給											外國鉄輸入				市場需要				
	出鉄高							市場以外仕向高				市場へ供給可能高	各製鐵會社貯藏	差引市場へ供給高(A)	印度鉄	支那鉄	米國鉄	合計(B)	需要高(A+B)	前年に比し増減
	輪西	金石	兼二浦	本溪湖	鞍山	淺野鶴見	計	自家用及地賣高	海外向輸出高	製鐵所納入高										
大正 13	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	81,905	—	—	—	—	—	—	—	
14	82,471	47,539	102,931	50,332	96,411	—	379,684	98,631	10,016	—	270,987	90,350	262,542	153,943	12,904	87	166,934	429,476	—	
15	95,602	64,659	115,777	48,478	145,936	—	470,452	110,483	8,482	22,052	329,435	89,919	330,766	229,450	3,826	102	233,378	564,144	134,668	
昭和 2	92,094	67,684	125,077	46,362	192,890	22,165	546,272	122,050	18,178	117,795	288,249	89,297	287,971	263,220	5,895	102	269,217	537,188	-6,956	
3	109,538	75,737	145,947	59,694	220,635	54,889	606,441	175,550	21,408	106,951	362,531	83,959	367,809	312,975	—	22,493	335,468	703,337	146,149	
4	117,136	98,900	153,234	77,152	217,859	62,494	726,775	165,716	26,372	82,848	431,836	176,831	338,967	414,773	2,122	30,717	447,612	786,579	83,242	
以下豫想																				
5	125,000	165,000	157,000	110,000	280,000	63,000	900,000	168,000	27,000	31,000	674,000	350,831	500,000	150,000	—	—	150,000	650,000	-136,579	
6	150,000	200,000	170,000	120,000	300,000	63,000	1,003,000	180,000	30,000	—	793,000	343,831	800,000	—	—	—	—	800,000	150,000	
7	150,000	200,000	200,000	150,000	310,000	65,000	1,075,000	180,000	35,000	—	860,000	353,831	850,000	—	—	—	—	850,000	50,000	
8	160,000	210,000	210,000	150,000	310,000	65,000	1,105,000	185,000	40,000	—	880,000	333,831	900,000	—	—	—	—	900,000	50,000	
9	160,000	210,000	210,000	155,000	310,000	65,000	1,110,000	185,000	40,000	—	885,000	263,831	950,000	—	—	—	—	950,000	50,000	
10	160,000	210,000	210,000	155,000	310,000	65,000	1,110,000	185,000	40,000	—	885,000	148,831	1,000,000	—	—	—	—	1,000,000	50,000	

備考 (1) 本表は八幡製鐵所を除きたる本邦市場の鉄鐵需給高を示すものとす而して昭和4年迄は実績5年以降は豫想とす

(2) 内地鉄出鉄量豫想は既に着手せる設備充實分のみ計上せるものに付確實なる豫算なり而して昭和8年以降の擴張を計上せざるに付き一層

需要の増加あれば之に適應する増産可能にして即ち内地鉄自給完成せる次第なり

(3) 外國鉄中米國鉄は4年10月以降全然輸入なし、又支那鉄は數年來の実績に徴し問題外なるべし

(4) 印度鉄輸入5年度豫想150,000噸は既に大部分契約済のものを推定計上せり將來は全然其の輸入を防止するを要す

(5) 市場需要高は5年度に於て激減するも6年度には常態に復し爾後年々50,000噸宛増加するものと推定せり

(6) 以上の豫想に於て5-8各年末内地鉄生産貯藏高は引續き350,000噸内外となるを以て萬一印度鉄の輸入繼續せんか恐らく内地鉄は貯藏高の過多に堪へざるべし

一印は減を示し無印は増とす

(5) 昭和 3 年度骸炭用石炭消費額 (鐵鋼協議會調査)

北海道炭	九州炭	樺太炭	支那炭	滿洲炭	朝鮮炭	計
261,300	1,305,600	51,900	517,300	344,600	5,800	2,486,600
10.5%	52.5%					
63.0%		2.0%	21.0%	14.0%	—	100.0%

備考 1、支那炭の總消費額に對する比率は約 21 % なり 2、動力用として此外合計 92,500 噸を消費せり。
3、骸炭を購入し製鉄用に使用したる場合の原料炭は本表に計上せられず依て本表により鉄鐵 1 噸當原料炭を算出する事能はず。

(6) 將來に於ける鐵鑛需給關係 現在に於ける各社増産計畫の進行に伴ひ昭和 6 年には略本邦鉄鐵は自給自足の域に達し得る見込あり。

今昭和 6 年の各社生産鉄鐵合計 (内地、朝鮮、滿洲) を概略豫定すれば

内地	約 1,380,000 t	朝鮮	約 170,000 t	滿洲	約 420,000 t	計	1,970,000 t
----	---------------	----	-------------	----	-------------	---	-------------

以上に對し鑛石の供給所要を見積れば (鉄鐵 1 噸當 1 と假定)

内地鉄鐵 138 萬噸に對し	約 2,210,000 t	朝鮮鉄 17 萬噸に對し	約 270,000 t
滿洲鉄 42 萬噸に對し	約 670,000 t (富鑛として)		

而して滿洲鉄に對する原鑛石供給は同地所在 10 億噸以上の貧鑛が完全に其利用價值を見出されたる今日に於ては充分なるを以て考慮の外に置くを得又朝鮮に於ても年間約 60 萬噸の鑛石の産出は實蹟に徴して容易にして同地製鉄原料を滿し尙 30 萬噸位内地へ移入し得るを以て暫らく之を措き内地鉄 138 萬噸に對する原鑛 221 萬噸の供給が如何を見るに當分の間利用可能なるものの大略豫定し得るは (1 年間)

内地鑛石	朝鮮鑛石	支那鑛石	比津賓鑛石	馬來領鑛石	計
500,000 t	300,000 t	300,000 t	200,000 t	1,050,000 t	3,350,000 t

以上の外濠洲(ヤムピーサウンド)ボルネオ(セボック)スマトラ等よりも供給の希望ある次第なるを以て内地需要額 200 萬噸程度の鑛石は之を得るに些の困難なく其中の最も有利なるものより、適宜之を求めつつある現状なり更に滿洲の貧鑛は之を内地に於て利用する事も既に可能なる状態なるを以て原鑛供給問題は決して悲觀するの要なく東洋及南洋に於ける鐵鑛資源は結局日本に利用せらるべき運命を有するものと認め得べし。

(7) 骸炭用石炭の供給 製鉄用骸炭原料炭として北海道炭は充分用途に耐ゆること既に實際に於て證明せられ樺太炭は配合用とし好まるる處なり。

九州炭に開平、本溪湖炭を配合せるものは適當なる骸炭の原料となる本邦に於て使用せらるる骸炭用原料炭は大體九州炭、北海道炭、支那炭及樺太炭にして使用量の割合は大體

九州炭	北海道炭	支那炭	滿洲炭	樺太炭	計
52.5%	10.5%	21.0%	14.0%	2%	100%
(63%)					

今安全の爲鉄鐵 1 t に要する骸炭の量を 1 噸 1 分とし骸炭噸當原料炭 1.8 t とすれば鉄鐵 1 噸當骸炭用原料炭は 1.98 t なり依て昭和 6 年鉄鐵自給の際に於ける鉄鐵生産豫定額 197 萬噸に對し必要なる

石炭約 390 萬噸、又鋼材輸入 80 萬噸を自給する場合の銑鐵増産(88 萬噸)に對して 174 萬噸合計 564 萬噸を要す、依て其 63% を九州炭及北海道炭を以て供給するものとせば約 355 萬噸を必要とす。

之に對し該炭原料炭として豫想し得る内地炭埋藏量は安全に見積りても 17 億噸又稍樂觀的に之を見積る時は 27 億噸(詳細略)あるを以て其供給に付ては悲觀するを要せず。

昭和 4 年 銑鐵 需給 關係 (概算)

		消費	製鋼用	鑄物用	合計
昭和 4 年内地、朝鮮及滿洲生産額	約 1,500,000t				
内 八幡製鐵所(東洋製鐵を含む)	790,000 "	内地銑(鮮滿を含む)	75,000 t	264,000 t	339,000t
差引(民間)	710,000 "	印度銑	182,000	206,000	388,000
内 自家用及地賣	186,000 "	米國銑	—	30,000	30,000
輸 出	26,000 "	計	257,000	500,000	757,000
製鐵所納入	83,000 "				
再差引	410,000 "				

關東鑄物懇話會總會 關東鑄物懇話會第 2 回通常總會並に春季講演會は 5 月 18 日、日比谷公園東京市政會館に開かれた。關西鑄物懇話會からは特に理事戸波親平氏、清水楯治氏其他出席、一般では住友新居濱、日本車輛、北海道室蘭製鋼所其他關西、東北、新潟縣等全國各地から多數參會者があつた。午前 10 時半總會を開き石川理事長開會を宣し諏訪常任理事會務一般を報告、牟田常任理事會計事務報告後、評議員、畠中隣吉氏は關東鑄物懇話會の名稱を日本鑄物懇話會と改稱しては如何との動議を提出し、理事長之を一同に諮りたるに賛成者少く否決、結局一切は幹部に一任し名稱變更問題並に東西合併問題共慎重協議することとなり閉會し、午後講演會に移る、聴衆 600 名を越ゆるの盛會であつた。

鑄物に就ての感想、東大教授工學博士 倭 國一。心金無しの中型製作に就て 海軍技師、西 武雄。内燃機筒の磨耗に關する概念 池貝鐵工所技師坂田三一。黒心可鍛鑄物に就て 戸畑鑄物會社技師、網谷俊平。鑄物砂に就て 東大助教授工學博士 三島徳七。講演會修了後懇親晚餐會に移り多數のテールスピーチあり初夏の夜を團樂の裡に午後 9 時散會。

新刊紹介、可鍛鐵鑄物 岡島奈良藏著、工業雜誌社發行(定價 3圓)全文 239頁、總論、原料熔解法、可鍛鑄物の設計法、模型の製作法、鑄型の製作法、軟化作業、軟化鑄物の仕上げ法、製品検査、鍍金法、英國式白色可鍛鑄物製造の概論、及び自動車クランクケースの製造の 12 章 92 圖よりなり、斯業に關する事項は悉く網羅し餘す所なし。著者が序に述べる如く學理、學説は單に其應用せらるべき要點のみを説くに止め専ら著者自身の實驗と經驗に基き實地製造法を詳説し、工作上日々遭遇する種々の問題の解決に勉めたり。平易にして最も要點に觸れ、しかも冗長に流れず初學者及び斯業に従事せんとする者の良教科書たり又實地斯業に従事せるもの並に研究者にとりても良參好書たることを疑はず。

世界動力會議開催 今回は第二回世界動力會議で獨逸柏林市に於て 6 月 16 日より 10 日間 6 月 25 日まで開會す、出席者は 36 ケ國の何れも斯道の専門家のみにて同國及各國共で 2,500 名程參集の豫定、其主たる國別出席者數は日本 100 名、英 200—300、米 350、佛 100、伊 50、伯 30、其

他奧、露、スイス、ポーランド等各 100 名獨國內 800—900 名にして其他外國來賓を加ふる時は 3,550 名に上る見込なると。

獨逸にては此開催を機とし國內重要工場約 200 ケ所を開放して參觀せしめ同國工業を世界に紹介する計畫あり、次に同會議の目的及由因の概要以下の如し。

會議の目的と由來 世界動力會議といふのは今から 6 年前イギリスの主催で 1924 年に第一回會議をロンドンに開いたもので、其目的とする所は要するに工業原動動力の合理化、經濟化である、今少し詳しく言へは各種動力（エネルギー）の生産、配給利用に關して、技術的並に經濟的見地から合理化を計らう、そしてその爲めに専門家の世界的協調を圖らうと言ふに在る、今度ベルリンで開くのはその二回目の總會である、尤もその間に部分的な會議が次の如く開かれてゐる。

1926 年バーゼル（スイス）において、主要議題「水力利用と内地河川航行」1928 年ロンドンにおいて、主要議題「燃料に關する諸問題」1929 年 5 月バルセロナ（スペイン）において、議題「水力利用問題」1929 年 10 月日本東京において、議題「動力源泉の開発」最後の東京の會議は萬國工業會議と同時に開催されたものである。

主催者と幹部 ベルリンに開かれる第二回世界動力會議の主催者はこの會議の爲め特別委員會（ドイツ・ナチ・ナール・コミテ）がこれに當る委員は政府工科大学、技術家、科學者、工業家の有力諸團體、鐵道その他から多數の専門家が選ばれてゐる、そして事務所はベルリンのエンヂニヤ・ハウス（Berlin. NWE, Ingenieurhaus）に置いて居る。

會議の幹部としてドイツ大統領ヒンデンブルグが親しく名譽總裁となり、總裁はオスカー・ミラー氏（Dr. Oskar von Miller）であるミラー氏はミュンヘンにある有名なドイツ博物館の創設者であり又ドイツ電氣業界の元老である會長はドイツ技術家協會會長にしてシーメンスの重役たるキョットゲン氏（Dr. Ing. E. h. C. Cottgen）總務はマツチョス氏（Prof. Dr. Ind. E. H. C. Matschogs）である、キョットゲン氏及びマツチョス氏は昨年萬國工業會議に日本に來た行つた人々である、政府各省大臣、各政黨首領其他朝野の諸名士も執行委員中に加はつてゐる。

會議場と通譯設備 大會の會議場としてはドイツ帝國議會前に在る國立オペラ劇場（Kroll Opernhaus）が之に當てられてゐる、同劇場内にベルリン最大の會議場がある。

動力會議に加盟してゐる世界 48 ケ國中から今度の會議には 36 ケ國の代表が出席する、國際的會議で常に困難を感じるのは言葉である、30 數ケ國の夫れぞれの國語に一々通譯する事は殆ど不可能であるが、今度の會議には前例のない設備として出来る限りこの難點を除くことに努める、即ち會議の公用語は英、獨、佛語と定められてゐるが、この内何れか一國語を解すれば今度の會議の出席者は少しも不便を感じぬ筈である。

演壇のすぐ傍には 3 個のマイクロフォンが据付けられて 3 人の通譯者が其の前に陣取る、若し演說者がドイツ語で喋れば即座に 2 人の通譯者が同時に夫れぞれ英語と佛語に通譯する、又演說者が英

米	國	—	—	—	—	—	—	166
瑞	典	—	—	—	—	—	—	830
白	耳	—	—	—	—	—	—	—
其	義	5	—	—	—	—	—	5
計	他	4,964	4,683	10,344	4,361	361	—	24,713
								93,798

備考 大藏省主税局調査の數字は單位擔なるを以て1擔 0.06048 噸の割合にて換算したり。

銑鐵市場在庫月報

昭和5年3月31日現在 三菱商事株式會社金屬部

市場	持主別			合計	前月比較	摘要
	生産筋	問屋筋	消費筋			
東横	12,454	3,435	19,381	52,490	+ 14,599	
	17,220					
名古屋	3,183	3,360	2,495	9,036	- 2,137	
	13,351					
大阪	13,351	20,380	59,260	91,991	- 14,217	
	953					
長崎	953	1,579	8,047	10,579	+ 1,204	
	—					
函室	—	—	—	—	—	
	21,212					
釜兼	21,212	—	—	21,212	+ 1,610	
	27,101					
二浦	27,101	—	—	27,101	+ 751	
	44,626					
大連	44,626	—	—	44,626	+ 16,470	
	52,647					
其他	52,647	580	770	53,997	- 24,503	
	1,243					
合計	1,243	—	—	1,243	+ 547	
	193,990					
前月比較	193,990	29,334	88,953	312,277	- 5,676	
	- 6,966					
備考	- 6,966	- 5,421	+ 6,711	- 5,676		
	91,028					
前年度同月	91,028	26,664	80,245	197,937	+ 114,340	
	—					

銑鐵市場在庫高月報

昭和5年3月31日現在 三菱商事株式會社金屬部

品兼	種	京濱	名古屋	阪神	九州	滿鮮	北海道	其他	合計	前月比較
二浦	石	12,741	3,146	15,652	631	44,726	—	150	77,046	+ 10,226
釜兼	西	840	200	2,150	35	—	—	27,191	30,416	+ 1,351
輪	山	5,835	2,403	6,185	227	—	21,212	760	36,622	+ 2,851
鞍	湖	5,029	570	19,170	1,187	39,848	—	—	65,804	- 19,960
本溪	野	5,130	1,579	3,421	543	13,524	—	213	21,443	+ 2,555
淺野	銑	18,310	—	—	1,500	—	—	—	19,810	+ 1,250
大	暮	—	—	—	100	—	—	—	100	+ 40
Tata		870	—	18,600	310	—	—	—	19,780	- 4,965
Burn		3,215	430	16,000	5,243	325	—	—	25,213	- 1,215
Bengal		170	410	5,230	328	—	—	—	6,138	- 507
Cleveland		160	—	—	100	—	—	—	260	+ 110
Hematite		170	—	650	—	—	—	—	820	+ 30
Swedish		—	—	100	—	—	—	—	100	- 50
Mysore		—	—	—	355	—	—	—	355	0
米國	銑	20	—	100	—	—	—	—	120	0
大陸	銑	—	—	—	20	—	—	—	20	- 7
雜		—	300	4,730	—	200	—	—	5,230	+ 2,615
合計		52,490	9,038	91,991	10,579	98,623	21,212	28,344	312,277	- 5,676
前月比較		+ 14,599	- 2,137	- 14,217	+ 1,204	- 8,033	+ 1,610	+ 1,298	- 5,676	